

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生涯現役で生涯青春のまちづくり
-------------	-----------------

現状と課題

今後、さらなる高齢者数の増加が予測される中、元気な高齢者を増やしていくためには、活力の源となる「生きがいつくり」を推進していくとともに、社会参加の促進を図っていくことが必要である。

第7期における具体的な取組

＜生きがいつくり＞

- ・高齢者いきがい講座、高年大学、老人クラブ、ボランティア活動、介護支援サポーターポイント事業等の実施

＜社会参加の促進＞

- ・老人クラブ、高齢者福祉バス運行事業、鯖江シルバー人材センター事業の推進

目標（事業内容、指標等）

H30 年度目標値

・高齢者いきがい講座実人員	640 人	老人クラブ		3,730 人
・高年大学受講生数	530 人	介護支援サポーターポイント事業登録者数		340 人
・ふれあいバス実施回数	30 回	シルバー人材センター会員数		630 人
・学びバス実施回数	33 回			

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - 目標値に対する実績値等で評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	30年度
----	------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容																
<p>H30 年度実績</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 35%;">・高齢者いきがい講座実人員</td> <td style="width: 15%;">784 人</td> <td style="width: 30%;">老人クラブ</td> <td style="width: 20%;">3,470 人</td> </tr> <tr> <td>・高年大学受講生数</td> <td>462 人</td> <td>介護支援サポーターポイント事業登録者数</td> <td>387 人</td> </tr> <tr> <td>・ふれあいバス実施回数</td> <td>21 回</td> <td>シルバー人材センター会員数</td> <td>580 人</td> </tr> <tr> <td>・学びバス実施回数</td> <td>29 回</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	・高齢者いきがい講座実人員	784 人	老人クラブ	3,470 人	・高年大学受講生数	462 人	介護支援サポーターポイント事業登録者数	387 人	・ふれあいバス実施回数	21 回	シルバー人材センター会員数	580 人	・学びバス実施回数	29 回		
・高齢者いきがい講座実人員	784 人	老人クラブ	3,470 人													
・高年大学受講生数	462 人	介護支援サポーターポイント事業登録者数	387 人													
・ふれあいバス実施回数	21 回	シルバー人材センター会員数	580 人													
・学びバス実施回数	29 回															
自己評価結果																
<p>高齢者いきがい講座参加数や介護支援サポーターポイント事業登録者数については目標値を上回る実績を得たが、その他の事業については、目標値を下回る結果となった。</p>																
課題と対応策																
<p>老人クラブ会員数は減少しているが、サロン参加者数は増加しており、今後、何らかの交流活動を通じて老人クラブの会員数増を図ることができないか検討する必要がある。</p>																

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル いつまでも健康で暮らせるまちづくり

現状と課題

本市の人口推計では、後期高齢者が増加することが予測されており、後期高齢者においては認知症や要介護度の重度化のリスクが高くなると考えられる。高齢者が健康で自立した生活を送ることができるためには、自主的・積極的な介護予防事業の推進とともに、ひとりひとりの身体状況や生活環境に応じたサービスを提供する必要がある。

第7期における具体的な取組

- ＜健康づくりの推進＞
- ・各種検診、生活習慣病予防、たばこ・アルコール対策
- ＜介護予防事業の充実＞
- ・総合事業による介護予防事業の充実

目標（事業内容、指標等）

H30 年度目標値

- ・健康チェックリスト回収率 62% 健康寿命ふれあいサロン利用者数 2,360 人
- ・介護予防いきいき講座参加者数 390 人
- ・脳わくわくクラブ参加者数 47 人
- ・湯ったりクラブ参加者数 210 人

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - 目標値に対する実績値等で評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	30年度
----	------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<p>H30 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康チェックリスト回収率 64% 健康寿命ふれあいサロン利用者数 2,427 人 ・介護予防いきいき講座参加者数 330 人 ・脳わくわくクラブ参加者数 26 人 ・湯ったりクラブ参加者数 430 人
自己評価結果
<p>健康チェックリスト回収率、湯ったりクラブ参加者数、健康寿命ふれあいサロン利用者数は目標値を上回ったが、介護予防いきいき講座参加者数は目標値を下回った。</p>
課題と対応策
<p>本年度は、介護予防いきいき講座の参加者が湯ったりクラブに流れる傾向にあったため、利用者のニーズや必要とされている情報を踏まえ、一般介護予防事業全体を通して、各種事業の対象者や開催回数、内容等を検討していく必要がある。</p> <p>また「見える化」システムのデータ分析から本市の介護保険を利用している認知症患者について重度化している傾向にあると思われるため、原因分析と対策を考える必要がある。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	安心・安全で住み慣れた地域で暮らせるまちづくり
------	-------------------------

現状と課題	
<p>高齢化が進行し、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加が予想される中、住み慣れた地域で安心して生活できる体制を整えるためには、地域包括ケアシステムの深化・推進、医療・介護連携体制の推進とともに、介護保険サービスを充実し、生活環境を整備する必要がある。</p>	
第7期における具体的な取組	
<p>＜地域包括ケアシステムの推進＞</p> <ul style="list-style-type: none">・地域ケア推進会議、地域ケア個別会議の開催 <p>＜医療・介護連携体制の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none">・多種職連携研修会の開催、在宅医療・介護連携推進協議会の開催・退院支援ツールの普及、ICTを活用した支援者間の情報共有ツールの推進 <p>＜介護保険サービスの充実＞</p> <ul style="list-style-type: none">・各種介護保険サービスの基盤整備・要介護認定の適正化、事業者の指導監査、相談体制の充実 <p>＜生活環境整備＞</p> <ul style="list-style-type: none">・生活支援サービスの実施	
目標（事業内容、指標等）	
<p>H30 年度目標値</p> <ul style="list-style-type: none">・地域密着型介護老人福祉施設 新たに1箇所（29床）整備・認知症対応型共同生活介護施設 新たに1箇所（2ユニット18名定員）整備・小規模多機能型居宅介護施設 新たに1箇所（定員29名以下）整備	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none">□ 中間見直しあり■ 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">目標値に対する実績値等で評価	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	30年度
----	------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
H30 年度実績 ・地域密着型介護老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護施設、小規模多機能型居宅介護施設についてプロポーザル方式で募集をかけ、H31 年度以降に整備することが決定している。
自己評価結果
目標通り、介護サービス事業所が整備される予定であるが、施設の設立には、社会福祉法人格を有している必要があり、現在、社会福祉法人化に向け、対象事業所と調整中である。
課題と対応策
介護保険整備計画に盛り込んだ3つの施設については、整備の方向で計画が進んでいるが、一方、定期巡回、随時対応型訪問介護看護については、前年度開始する予定だった事業所が経営方針転換で本市から撤退したため、1事業所不足した状態となっている。 また、第6期介護保険計画の実績データ分析結果から、訪問介護サービスの利用や、一人当たりの在宅サービス定員数が全国平均と比較するとかなり少ないことがわかっており、原因分析と対策が必要となっている。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル みんなで支え合い助け合うまちづくり

現状と課題

高齢化が進行し、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加が予想される中、認知症重度化による虐待の増加や、徘徊高齢者の増加、キーパーソンの不在など地域の課題把握や課題解決のためには、公私協同の関係を密にし、市民参加を大切にしながら、地域福祉を促進していく必要がある。

第7期における具体的な取組

＜認知症高齢者対策＞

- ・認知症ケアパスのガイドブックの作成
- ・認知症に対する理解促進、人材育成
- ・認知症の早期発見、早期対応
- ・家族介護者支援の充実
- ・徘徊高齢者家族支援
- ・高齢者見守りネットワーク（ご近所福祉ネットワーク活動）の強化

目標（事業内容、指標等）

H30 年度目標値

- | | |
|---------------|---------|
| ・認知症サポーター数 | 7,500 人 |
| ・もの忘れ検診受信率 | 8.3% |
| ・脳わくわくクラブ参加者数 | 47 人 |
| ・徘徊探知端末利用者数 | 5 人 |

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - 目標値に対する実績値等で評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	30年度
----	------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<p>H30 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター数 7,897 人 ・ もの忘れ検診受診率 10% ・ 脳わくわくクラブ参加者数 26 人 ・ 徘徊探知端末利用者数 4 人
自己評価結果
<p>物忘れ検診の受診率、認知症サポーター数については目標値を上回ったが、脳わくわくクラブ参加者数、徘徊探知端末利用者数については目標値を下回った。</p>
課題と対応策
<p>認知症サポーター養成は、一定数養成はしたものの、その後の活動展開が不十分であるため、ステップアップ講座を実施し、認知症カフェなどの取組につなげていく。検診については、対象者への訪問による受診勧奨やMC I の啓発など認知症予防についての啓発活動を強化し、市民が主体的に認知症予防の取組につながるようにする。</p> <p>また徘徊探知機端末については、制度周知を強化するとともに、スマートフォンの普及などで代替機器となっている可能性や、徘徊高齢者の在宅率などを検証し、介護者の負担軽減につなげていく必要がある。</p>